

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おりーぶ瑞ヶ丘		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日 ~ 令和7年11月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日 ~ 令和7年11月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月18日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のイベントが固定化されていない事や充実した内容になっていること。</li> <li>・イベントや活動の際は5領域を意識して課題の設定を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの内容によっては個人の課題が変わってくるため、それに応じた支援の実施が出来ている。</li> <li>・支援の内容に偏りが出ないよう、アプローチする項目を決めて支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの詳しい内容や、個人の課題、支援方法等が保護者様にも分かりやすくするため、保護者様への参加を促す機会を作る。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年、違う学校の友達同士での関わる事が出来、コミュニケーション面での刺激が受けられる。</li> <li>・上級生が下級生のお手本となり、上級生が下級生の面倒を見るという社会性を育む事が出来ている。</li> <li>・児童発達支援から児童を長期的に見る事が出来ている。高校卒業後は就労支援に繋げる事が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横の繋がりが出来るよう意識的に支援を行っている。他児との交流が難しい児童に対しては、指導員が介入しながら他児と関わる時間を作っている。</li> <li>・異学年交流をすることで、上級生がリーダーシップをとり、下級生に思いやりを持って接するという事を意識的に伝えている。</li> <li>・児童発達から上がってくる児童が長い事利用してくれているので、児童を長期的に見る事が出来ている。現段階ではまだないが、高校卒業後は就労支援に繋げる事が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントだけでなく普段の様子も共有出来るように保護者様への周知を行う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員の年齢層が幅広く様々な観点から支援に繋げる事が出来ている。</li> <li>・日々のミーティングがしっかりと出来ている。</li> <li>・子育て経験者の指導員が多い。児童1人ひとりを尊重して支援する事が出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員の年齢層が幅広いので、専門的なところだけではなく、様々な観点から情報を取り入れて支援に繋げる事が出来ている。</li> <li>・少しでも気になる事があれば必ず共有出来るようにし問題解決に繋げる事が出来ている。話しやすい環境作りに努めている。</li> <li>・子育て経験者が多いので、1人1人に寄り添いながら支援を行う事が出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような指導員が在籍しているか、専門的な支援について周知出来るようにしていく。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が参加できる行事を行っていない。	今まで保護者会実施の希望があまり無かつたため、実施していなかった。今回から保護者会実施の希望が多く寄せられた。	次年度より保護者会の実施を予定する。保護者様へアンケートを取り内容についての検討を行う。
2	セラピストの配置について	S Tの要望がとても多いが現段階での配置が出来ていない。	S Tの配置が出来るよう募集を行う。
3	保護者への周知について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの内容や普段の療育について、実際に見てもらう機会が少ないので、内容やイベントの意図などが伝わっていない。</li> </ul>	事業所内で行うイベントを保護者が参観出来る機会を作っていく。

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		おりーぶ瑞ケ丘				公表日	R7年 12月 22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・1人1人ゆったり過ごせるスペースを確保出来ている。			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2		・基本的には適切であるが時間帯によっては足りないと感じる事がある。人員配置の調整が必要。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・学習スペース、余暇スペースが区切られている。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・毎日の掃除、アルコール消毒を行っている。			
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・休息スペースを作っている。			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		・その日の支援の振り返り→次の支援にどう繋げていくかを話し合っている。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・毎年の評価により意見に応じて検討を行っている。 ・STの要請や専門的支援の実施。			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎日のミーティング、2か月に1回の職員会議で話し合いの場を設けている。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		・外部評価が必要な事案がなかった。必要な事案が発生した場合は外部評価の実施を行う。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	・月1回法人内での研修を行なっている。	・事業所外でそのような場が開催されれば良いと感じる。外部での研修にも参加出来るよう人員配置の調整を行う。		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・支援プログラムの作成と公表を行なっている。			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・半年に1回のモニタリング→ケアカンファレンスを行った上で支援計画を作成している。			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・ケアカンファレンス会議で利用者の課題や必要な支援について検討を行なっている。			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・支援計画作成後は職員間で共有するようにしている。			
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		・日々の記録からアセスメントに繋げている。			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・利用者の課題に応じて各項目ごとの課題設定を行っている。			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・毎月のイベントや活動は話し合いの機会を設けている。			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・季節に応じてイベント内容をかえている。 ・過去のイベントなども共有して頂くことで定番と挑戦をしている。			

供	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・利用者によってはどちらに重きを置くか変わってくるが、偏りが出ないよう留意している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・支援開始前にはミーティングを行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・支援開始後にミーティングを行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・日々の記録をもとに支援内容の改善に繋げている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・半年に1回のモニタリング、支援計画の見直しを行っている。 ・モニタリング以外(日々の支援)での子どもの言動も共有できている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	2	・平日はなかなか難しい(創作活動など)ものはあるが実施している。	・地域と関わる機会は現段階で設けていない。地域での行事等に参加出来るような機会を作っていく。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・遊びの選択、その日の調子によっては学習課題の選択を行ってもらっている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	・対象の利用者がいないが、サービス担当者会議には児発管が参加できる体制をとっている。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	・協力医療機関の体制を整えている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	・送迎時の申し送り、電話連絡等で情報共有ができている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・児童発達との連携を行うことが出来ている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		・対象の利用者がいない。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4		・現段階では実施していない。必要に応じて体制を整えていく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	5		・地域と関わる機会は現段階で設けていない。地域での行事等に参加出来るような機会を作っていく。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4	・法人で参加している。	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎時の申し送り、連絡帳などで共有することができている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6		・現段階では実施していない。必要に応じて体制を整えていく。
-	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約時に行なっている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・保護者様、利用者からのヒアリングを行なっている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・個別支援計画作成後は必ず説明するようにしている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・連絡帳や電話、面談等でできている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7		・現段階で実施していない。要望が多かったため次年度より開催する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		7		・苦情があった場合は早急に対応している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		7		・HUGやSNS等で発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		7		・鍵付きロッカーで保管している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		7		・保護者との連絡を常にできる体制をとっている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3	3	・法人が行う毎月のフリマに参加している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		7		・マニュアルの策定→研修は出来ているが保護者への周知はできていない。周知の徹底を行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		7		・BCPの策定→研修→机上訓練を行なっている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		7		・服薬、てんかんの方は在籍していない。予防接種を受ける際は連絡をいただくようにしている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		3	2	対象の児童がいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		7		・安全計画をもとに研修等の開催、安全計画に沿った支援を行なっている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		7		・置き去り防止の安全装置について周知している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		7		・事案が発生した際はヒヤリハットの作成を行い職員間での共有を行なっている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		7		・毎年2～4回虐待防止と身体拘束の研修を行なっている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		7		・対象のご利用者様に対しては支援計画の記載後保護者様への同意を得ている。 ・ビデオで再確認し、テストも実施された。